

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈小・音楽〉

特別研修員 音楽 黒谷 英里（小学校教諭）

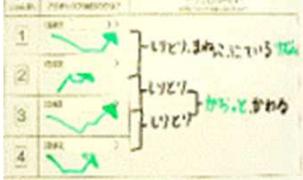
題材名 『日本の音楽に親しもう』（第4学年） 全6時間計画

題材のねらい

日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。

題材構想の意図

本題材では、日本の音楽への興味を高め、学びの支えとなる日本の音楽の雰囲気や特徴に気付かせていくために、つかむ過程で日本の民謡を取り上げ、合いの手や掛け声を入れながら聴いたり、旋律の一節を演奏したりしていきます。追求する過程では、音楽を形づくっている要素と表したい思いや意図とを関連付けながら表現を探ることができるように、鑑賞活動で学んだ要素を手掛かりに試しながらお囃子の旋律をつくったり、友達の旋律と工夫してつなげたりしながら表現のよさや面白さを共有・共感させます。まとめる過程では発表を行い、表現の高まりを実感させ、さらに題材全体を振り返らせることで学びが深まるように構成しました。

過程	主な学習活動	題材への興味・関心をもたせる
つかむ (B鑑賞・2)	<p>1. 題材の課題を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ソーラン節」「八木節」を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。 ○題材の課題をつかむ。 <p>日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「こきりこ」を歌ったり旋律を演奏したりしながら聴き、感じたことや気付いたことを伝え合う。 	<p>題材の学びへの動機付けになるよう、既習事項である祭囃子を想起させ、似ているところや異なるところなどを比較しながら曲を聴かせ、日本の音楽の雰囲気や特徴に興味をもたせる。</p> <p>音楽の特徴を捉えさせる</p> <p>学びの支えとなる音楽を形づくっている要素に着目できるように、節を歌ったり手拍子をしたりしながら鑑賞し、音楽を捉えさせる。</p> <p>学びの見通しをもたせる</p> <p>民謡から感じ取った雰囲気と日本の音楽の特徴とを関連付け、題材で追求していくことの焦点化を図る。</p>
追求する (A表現・3)	<p>2. 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の五音音階と五つのリズムパターンを試して演奏する。 ○リズムと音の組合せを工夫して試しながら、旋律づくりをする。 ○三人組で工夫して旋律をつなげ、グループのお囃子をまとめる。 ○旋律のつなげ方を表に記入し、可視化する。  <p><つなげ方を試行して探る></p>  <p><ボードに情報を整理する></p>  <p><旋律のつなげ方を表した例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○中間発表を行い、表現の工夫を伝え合う。 ○つなげた旋律に合うリズム伴奏を付けて、グループのお囃子を演奏する。 	<p>表したい思いや意図をもたせ、膨らませることができるようにする①</p> <p>言葉によるやり取り（表現したい思いや意図）と、それを音で試す活動を行き来することで、個人やグループによる工夫を練り上げ、思いや意図を膨らませることができるようにする。</p> <p>表したい思いや意図をもたせ、膨らませることができるようにする②</p> <p>つなげ方の順序や工夫をボードに記入して視覚的に情報を整理し、自分たちの学びを蓄積するとともに、可視化した情報を基に、他者に表現の工夫を伝えたり再現したりしながら、思いや意図を膨らませていくことができるようにする。</p> <p>表現のよさや面白さを共有・共感させる</p> <p>中間発表の場を設け、各グループの表現の高まりを意図的に紹介し、どんな工夫がされていたかを確認し合うことで表現のよさや面白さを共有・共感させ、自分たちの表現に生かせるようにする。</p> <p>表現の高まりを実感させる</p> <p>発表者も聴き手もお互いに工夫点やイメージを意識して演奏したり聴いたりを通して、表現のよさや面白さを認め合うことができるようにする。さらに、印象に残った表現の工夫を取り上げ、全体で一緒に演奏することで、表現の高まりを実感させる。</p>
まとめる (A表現・1)	<p>3. 表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旋律のつなげ方の工夫を確認し、発表を行う。 ○印象に残った表現の工夫を全員で演奏して確かめる。 ○「日本の音楽」の学習全体を振り返り、学んだことや今後にかきたいことをワークシートに記入する。 	<p>題材の学びを自覚させる</p> <p>「五音音階」「リズム」「旋律」等の日本の音楽の特徴や「呼びかけとこたえ」「反復」「変化」等の音楽の仕組みに関わる要素とその働きの視点で題材の学びをまとめるとともに、学んだことをどのように生かしたいかを問い掛け、生活や文化と関連付けながら振り返らせる。</p>

指導のポイント

指導例：『日本の音楽に親しもう』（第4学年 第1時）

1 題材への興味・関心をもつ。

○祭囃子を聴き、既習事項を振り返るとともに、ミ・ソ・ラの三音を使って即興的につくった節を演奏する。

○「ソーラン節」「八木節」などの民謡を聴き、感じ取ったことや聴き取ったことなどを自由に伝え合う。

T：どんな音が聴こえましたか。

S：笛や太鼓のほかに、歌声が入っています。

T：歌う声は、みんなが合唱で歌う時の声と比べてどんな感じですか。

S：違います。話すときの声（地声）に似た声です。

S：伸ばして歌うところが揺れる感じがして面白いです。

S：「八木節」の最初の部分は、声を伸ばしながら低い音から高い音へだんだん上がっているよ。面白いな。

S：「八木節」のリズムは自然に踊りたくなります。

T：リズムをとっている楽器は何でしょうか。

S：太鼓やかねの音です。祭囃子と同じ。

T：民謡を聴いて、よいところや面白いところがたくさん見付かりそうですね。

では、今日のめあては…

めあて いろいろな民謡をきいて、日本の音楽のよさやおもしろさをさがそう。

2 中心となる音楽活動を行う。

○民謡の生まれた背景について知り、歌詞の内容から民謡と生活との関わりを捉える。

○拍子を打ったり、掛け声や合いの手を入れたりしながら聴いて、民謡の拍の特徴や調子の整え方を感じ取る。

S：はじめの「ソーラン」の旋律はみんなで力を合わせているような感じ。

T：どうしてそう感じるのかな。「旋律の動き」や「リズム」はどうなっていますか。



S：「タン・タタ」のリズムが繰り返されています。<リズムを打って特徴を捉える>

S：「タン」の部分で網を引いているのかも。

T：リズムを繰り返すことで、力を合わせて網を引く感じが生まれますね。

S：「ヨイヨイ」や「ハードッコイ」などの掛け声を入れると楽しいね。

T：「合いの手」といって、調子を整える役割をしています。

（全員で掛け声や合いの手を入れながらもう一度聴く）

S：本当だ。合いの手を入れるタイミングが一定になるね。

3 題材の課題をつかむ。

○日本の音楽の歌声やリズム、旋律の特徴を押さえ、さらに「ソーラン節」の旋律をリコーダーで演奏する。

日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくらう。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○祭囃子や民謡のよさや面白さを確かめ、それらを生み出す特徴を振り返る。

（児童の振り返り）

☆声を伸ばしながら、だんだんと音を上げていくところが面白いし、民謡らしいな。合いの手や掛け声を入れながら聴くと、調子が整って楽しい。

題材に関する興味・関心を喚起させる

○既習事項である祭囃子と使用される楽器を想起させ、さらにお囃子以外の日本の音楽として「民謡」を提示し、お囃子と比較しながら聴くことで「日本の音楽」への興味・関心をもたせる。

音や音楽の特徴を捉えさせる

○感受したことを児童から引き出し、なぜそう感じるのかを問い掛けながら「旋律の動き」や「リズム」に着目させることで、そのように感じる理由を曲の中から聴き取らせるようにする。

○聴こえてくる音に合わせて、掛け声や合いの手を入れたり、拍子を打ったりしながら聴かせ、演奏者の立場を疑似体験させることで、曲のよさや面白さにつながる音楽の特徴を捉えさせる。

学びの見通しをもたせる

○感じ取ったよさや面白さは「日本の音楽」の特徴であることを全体で共有し、さらに教材曲を実際に演奏してみることで自分たちも日本の音楽の特徴を生かして演奏したいという思いをもたせる。

題材に対する思いや願いをもたせる

○「日本の音楽の特徴」に着目し、題材を通してどんなことを学んでいきたいかを問い掛け、今後の学習への期待感を高める。

指導例：『日本の音楽に親しもう』（第4学年 第4時）

1 学習への興味・関心をもつ。

○五つのリズムパターンを、順番を変化させながらリズムリレーする。

2 めあてをつかみ、見通しをもつ。

T：二人組で「呼びかけとこたえ」になるように旋律をつなげてみたら、どうでしたか。

S：旋律が長くなって、面白くなりました。

T：「呼びかけ」と「こたえ」を入れ替えてみたら、旋律の感じはどうになりましたか。

S：何となく感じが変わった気がします。

T：ペアでつなげてさらに順序を入れ替えたら、新しい面白さが見付かりましたね。もっと面白くするには、どんな工夫をしたらいいですか。

S：つなげる人数を増やしてみたらいいと思います。

T：人数を増やしたら、つなげ方のパターンも増えるからもっと面白そうですね。では、今日のめあては…

めあて グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。

3 中心となる音楽活動を行う。

○三人組のグループで、それぞれの旋律の特徴に目を向けながらつなげ方を考え、試行しながら探る。

S1：三人とも同じリズムだから、音の高さに注目してつなげたいね。

S2：私の旋律は音が高いから、音が低い旋律とつなげたら、「呼びかけとこたえ」になりそう。

S3：急に音が上がるところは、目が覚める感じがするね。

T：そのはっとする感じを、何回目にもってきたいらいいでしょうか。

S2：低い音で始めて、2回目ではっとさせて、最後は高い音になるようにしてみたらどうなるかな。

(試して演奏した後)

S3：なんだか寝ているところから目覚めているお話が浮かんできたよ。

○中間発表を行い、表現の工夫を伝え合う。

(中間発表の後)

S：3回目と4回目は同じ旋律の繰り返しだったけど、4回目はみんなで同じ旋律を一斉に演奏していて、変化があったよ。

S：つなぎ目の音を同じ音にして、しりとりのようにつなぐと自然なつながりになるね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○グループのお囃子を面白くするために、旋律のつなげ方を工夫することができたかを振り返り、次時に向けて試したいことなども含めてワークシートに記入する。

(児童の振り返り)

☆お互いの旋律を聴き合ったら、私の旋律は友達の旋律と同じリズムでも使っている音が高かったの、低い音でつくった旋律の後につなげてみたら、呼びかけとこたえみたいで面白くつながったよ。

指導のポイント

めあてを引き出すために前時の学びを想起させる

○前時の学習でつくったお囃子の旋律をペアで交互につなげて演奏し、つなげ方の違いによって旋律の印象が変化することを実感させ、教師とやりとりをする中で、もっとお囃子を面白くしたいという思いをもたせる。

思いや意図を伝え合い試しながら工夫させる

○言葉によるやり取り（表現したい思いや意図）と、それを音で試す活動を行き来することで、グループによる工夫を練り上げ、思いや意図を膨らませられるようにする。

学びの過程を可視化し表現を工夫させる

○自分たちの学びを蓄積するとともに、他者に表現の工夫を伝えたり再現したりできるように、つなげ方の順序や工夫をボードに記入して視覚的に情報を整理させる。

表現のよさや面白さを共有・共感させる

○中間発表の場を設け、グループ表現の高まりを意図的に紹介し、どんな工夫が使われていたかを確認し合うことで自分たちの表現の工夫に生かせるようにする。

学びの視点を明確にし振り返らせる

○本時で高まった表現を教師が価値付けるとともに、音楽を形づくっている要素を手掛かりにつなげ方を工夫することで、表現したいイメージに近付いたかを問い掛け、学びの深まりを自覚させる。



<つなげ方工夫ボード>



<ボードを活用して演奏>

指導例：『日本の音楽に親しもう』（第4学年 第6時）

1 学習への興味・関心をもつ。

○前時までに工夫した各グループの表現の中から、面白さやよさを感じたものを全体で演奏する。

2 めあてをつかみ、見直しをもつ。

T：グループの旋律のつなげ方のなかで、心に残ったものを思い出してみましよう。どんなのがありましたか？

S：「しりとり」みたいに、同じ音でつなぐと、つながりが自然でした。

S：ゆったりとしたリズムと、細かいリズムをつなげて、「おはなし」のようにしたら、楽しくなりました。

S：低い音からスタートして、最後は高い音で終わるようにしたら、だんだん明るくなる感じがしました。

S：「まねっこ」（繰り返し）を使ったグループは、演奏する人数を増やして、変化のある繰り返しでよかったです。自分たちのグループにも取り入れてみました。

T：自分のグループのお囃子の工夫がより伝わるように演奏したいですし、他のグループのつなげ方の工夫についてももっと知りたいですね。

では、今日のめあては…

めあて グループのおはやしを演奏し合って、そのよさやおもしろさを見付けよう。

3 中心となる音楽活動を行う。

○グループのお囃子を発表し合う。

S：旋律のつなげ方の工夫は、静かに始まってだんだん盛り上げたかったので、1回目から3回目は低い音から高い音になるように「しりとり」でつなぎました。最後は、三人で一斉に始めの旋律を演奏します。（演奏が終わった後で）

T：このグループのよかったところや面白かったところを教えてください。

S：最後、みんなで一斉に演奏したところです。

T：みんなで吹くと、どんな感じになりましたか。

S：旋律が元気に聞こえて、なんだかお祭りの盛り上がりみたいな感じ。

T：「盛り上がる感じにしたい」というグループのイメージが伝わりましたね。



<工夫した点を伝える児童の様子>

○印象に残った表現を取り上げ、全体で一緒に演奏する。

S：三人のそれぞれの旋律を重ねて演奏するのも、意外に合うね。

S：実際に演奏してみると、お友達の工夫がよく分かったよ。

T：いろいろな工夫があって、そこにそれぞれのよさや面白さがありますね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○「日本の音楽」の学習全体を振り返り、学んだことや今後に生かしたいことをワークシートに記入する。

（児童の振り返り）

☆友達のつくった旋律と工夫してつなげたら、祭りの始まりから終わりのような流れができて、自分たちのつくりたいお囃子ができた。音楽集会で発表して、学校全体をお祭りみたいに盛り上げたいな。

指導のポイント

題材全体を振り返る
めあてを設定させる

○前時までの学習でそれぞれの旋律の特徴を捉え、つなげ方を工夫したことやもっと試してみたいと思ったことを想起させ、教師とやりとりをする中で題材全体を通して学んだことに目を向けさせる。

知識や技能を習得する
必要性を実感させる

○終わりを盛り上げて表現したいという思いを実現するために音量を増やすことに気付かせる。単独では音量を増やすことが難しいリコーダーにおいては、演奏する人数を増やすとよいことを確認し、楽器の特性についての知識や特性に応じた技能を習得させる。

音楽表現の高まりを実感させる

○発表者はイメージや工夫点、ぜひ聴いてほしいポイントを説明してから演奏するように指示し、発表者も聴き手もお互いにイメージと工夫点を意識して演奏したり聴いたりできるようにする。
○よさや面白さを伝え合ったり、一緒に演奏したりすることを通して表現の工夫を共有・共感できるようにする。

学びの視点を明確にして
題材全体を振り返らせる

○日本の音楽の特徴を聴き取り、それらを生かしてお囃子をつくって演奏することができた学習をまとめ、学んだことをどのように生かしたいかを含めて、題材全体を振り返らせる。

音楽科学習指導案

平成30年10月 第4学年 指導者 黒谷 英里

I 題材名 日本の音楽に親しもう

II 学習指導要領上の位置付け

A 表現

- (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。
 - (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。
 - (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くこと。
 - (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴
 - (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
 - ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 - (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
 - (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
 - イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

- ア 音楽を特徴付けている要素 … 音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、音階、拍、フレーズ
- イ 音楽の仕組み … 反復、変化、呼びかけとこたえ

III 目標

日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／6）

1 ねらい 「ソーラン節」「八木節」を聴き、旋律を歌ったり拍子を打ったりしながら特徴を感じ取ることを通して、日本の音楽の特徴に興味・関心をもつことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 題材への興味・関心をもつ。（15分）	<p>○祭囃子を聴き、三年生で学んだ日本の音楽の特徴について振り返らせるとともに、リコーダーを使ってミ・ソ・ラの三音で即興的につくった節をまねして演奏することで日本の音楽に親しみたいという意欲を喚起し、本題材で学ぶことについての動機付けをする。</p> <p>○お囃子以外の日本の音楽として「民謡」を提示し、お囃子と比較しながら聴くことで民謡の特徴に着目させる。</p> <p>○「ソーラン節」「八木節」を聴き、感じ取ったことや聴き取ったことを自由に発言させ、表出した言葉を基にして、本時のめあてを引き出す。</p>		
			めあて いろいろな民謡をきいて、日本の音楽のよさやおもしろさをさがそう。
2 中心となる音楽活動を行う。（20分）	<p>○民謡がどんな時に歌われたかについて知り、歌詞の内容を捉えて民謡と生活との関わりに気付かせる。</p> <p>○旋律の動きの特徴を捉えられるように、音の上がり下がりを手で示しながら聴かせる。</p> <p>○拍子を打ったり、掛け声をかけたり、合いの手を入れたりしながら聴き、民謡の拍の特徴や調子の整え方を感じ取らせる。</p>		
			<p>・郷土の音楽に興味・関心をもち、曲の特徴に気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）＜観察・発言＞</p> <p>・日本の音楽の歌声やリズム、旋律の特徴や違いを感じ取り、感じ取ったことを体や言葉で表現するなどして、それぞれの曲の特徴や演奏のよさや面白さに気付いて聴いている。（鑑賞）＜観察・発言＞</p>
3 題材の課題をつかむ。（5分）	<p>○日本の音楽の歌声やリズム、旋律の特徴を押さえ、さらに「ソーラン節」の旋律をリコーダーで演奏することで、自分たちも日本の音楽の特徴を生かしてお囃子をつくってみたいという思いをもたせる。</p>		
4 学習のまとめをし、学びを振り返る。（5分）	<p>○旋律の動きやリズムなどの要素や、反復、変化などの仕組みにより日本の音楽の特徴があることに気付かせ、曲のよさや面白さが感じ取れたことを確認する。</p> <p>○祭囃子や民謡のよさや面白さを確かめ、それぞれの背景や曲想も異なっていたことを振り返ることで、「日本の音楽」に親しんで学習を進めることに期待感をもたせる。</p>		
			<p>☆声を伸ばしながら、だんだん音を上げていくところが面白いし民謡らしい感じがする。合いの手や掛け声を入れながら聴くと、調子が整って楽しい。</p> <p>☆三年生の時に聴いた祭囃子と同じで、笛や太鼓、かねの音が入っていた。三つの楽器の音も日本の音楽らしいと思った。</p>

V 本時の展開（4／6）

- ねらい 旋律をつなげて演奏し、「おはやしの旋律」をグループごとにまとめる活動を通して、まとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 学習への興味・関心をもつ。（5分）	○リズムパターンと五つの音を提示し、リコーダーで即興的に旋律をつくって演奏する活動を通して、本時の学習への意欲を喚起する。		
2 めあてをつかみ、見通しをもつ。（5分）	○各自が五音でつくった旋律を即興的につなげて演奏する活動を通して、呼びかけとこたえになる旋律、反復や変化が感じられる旋律など音楽の仕組みに気付かせ、グループで面白いお囃子にするための見通しをもたせる。		
	めあて グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。		
3 中心となる音楽活動を行う。（25分）	○三人組に分かれてお互いの旋律を聴き合い、似ている旋律、異なる旋律、続く感じの旋律、終わる感じの旋律など旋律の特徴に目を向けながら組み合わせ方を考え、三つの旋律をつなげたり繰り返したりして試すよう促す。 ○各グループの表現の工夫を全体で共有・共感できるよう、旋律の音の上がり下がりを図示し可視化する。 ○グループ表現の高まりを意図的に紹介し、中間発表の場を設定することでそれぞれのよさを実感させ、アドバイスし合うことでその後の学びを深めさせる。		
	リズムや五音音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのような旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもち、拍の流れによってリズムや旋律のつなげ方、音の組み合わせを工夫している。（創意工夫）<観察・発言・ワークシート>		
4 学習のまとめをし、学びを振り返る。（10分）	○中間発表で高まった表現のよさや面白さを教師が価値付け、組み合わせ方を工夫してつなぎ合わせることで曲としてのまとまりができたことを確認する。 ○工夫した自他の表現を共有・共感させ、本時の学びでできたことや分かったことをワークシートに書いて振り返らせる。同時に、次時に向けてやってみたいこと、試してみたいことなども書くように促し、次時への期待感をもたせる。 ☆グループでお互いの旋律を聴き合ったら、私の旋律は、友達の旋律と同じリズムでも使っている音が高かった。低い音でつくった旋律の後につなげてみたら、呼びかけとこたえみたいで楽しくつながった。 ☆うまくつながらないところは、「続く感じ」「終わる感じ」を意識して、順番を入れ替えてつなげてみたらうまくいった。		

V 本時の展開（6／6）

1 ねらい グループでつくったお囃子を演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 学習への興味・関心をもつ。（7分）	○前時までには工夫したグループ表現の中から、特によさや面白さを感じたものを問い掛け、全体で演奏することで今までの学習を想起させる。		
2 めあてをつかみ、見通しをもつ。（3分）	○前時に工夫した各グループの表現について、表現したい思いや意図と関連付けて想起させ、さらに自他の表現のよさや面白さに目を向けさせることで演奏し合う活動への期待感をもたせる。		
めあて グループのおはやしを演奏し合って、そのよさやおもしろさを見付けよう。			
3 中心となる音楽活動を行う。（25分）	○グループのイメージと組み合わせの工夫を伝えてから発表させ、聴き手はイメージと工夫点を意識しながら聴くように伝える。 ○表現のよさや面白さを、感じ取ったことと「呼びかけとこたえ」「反復」「変化」等の音楽を形づくっている要素とを関連付けて伝え合うよう促す。 ○各グループの表現の中で特によさや面白さを感じたものについては、意図的に一緒に演奏してみることで、そのよさや面白さを共有・共感できるようにする。		
リズムや音の組み合わせを工夫して、五つの音でまとまりのある旋律をつくっている。 (技能) <演奏聴取>			
4 学習のまとめをし、学びを振り返る。（10分）	○各グループの表現のよさや面白さを振り返り、リズムパターンと五つの音を組み合わせることで日本の音楽の特徴に合った旋律をつくることができ、さらに音楽の仕組みを使って旋律をつなぎ合わせることでイメージに合った表現ができることを自覚させる。 ○題材を通して学んだことを「五音音階」「リズム」「旋律」などの日本音楽の特徴や「呼びかけとこたえ」「反復」「変化」等の音楽を形づくっている要素とその働きの視点でまとめるとともに、学んだことをどのように生活に生かしたいかを伝え合い、生活との関わりからの視点も含め題材全体を振り返らせる。 ☆友達のつくった旋律とつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができてイメージ通りのお囃子ができた。合いの手の部分は、掛け声の代わりにかねを鳴らしたら面白そう。 ☆自分たちのお囃子を音楽集会で演奏して、学校全体をお祭りみたいに盛り上げたいな。		

指導計画 音楽科 第4学年 題材名「日本の音楽に親しもう」(全6時間計画)

目標	日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。			
評価規準	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
	(1) 郷土の音楽に興味・関心をもち、曲の特徴に気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。	(1) リズムや五音音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのような旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもち、拍の流れにのってリズムや旋律のつなげ方、音の組み合わせを工夫している。	(1) リズムや音の組み合わせを工夫して、五つの音でまとまりのある旋律をつくっている。	(1) 日本の音楽の歌声やリズム、旋律の特徴や違いを感じ取り、感じ取ったことを体や言葉で表現するなどして、それぞれの曲の特徴や演奏のよさや面白さに気付いて聴いている。
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価規準 〈評価方法〉
つかむ	1	○「ソーラン節」「八木節」を聴き、旋律を歌ったり拍子を打ったりしながら特徴を感じ取ることを通して、日本の音楽の特徴に興味・関心をもち、つなげることができるようにする。 いろいろな民謡をきいて、日本の音楽のよさやおもしろさをさがそう。	☆声を伸ばしながら、だんだん音を上げていくところが面白いし民謡らしい感じがする。合いの手や掛け声を入れながら聴くと、調子が整って楽しい。 ☆三年生の時に聴いた祭囃子と同じで、笛や太鼓、かねの音が入っていた。三つの楽器の音も日本の音楽らしいと思った。	◇ア(1)エ(1) 〈観察・発言〉
	2	○「こきりこ」を聴き、前時に学習した民謡と比較しながら音楽の特徴や仕組みを捉えることを通して、五音音階やリズムの特徴について知ることができるようにする。 「こきりこ」をきいて、日本の音楽に使われている音のなぞをさぐろう。	☆「こきりこ」を聴いたり歌ったりして、五つの音だけで曲ができていくことに気付いて驚いた。 ☆五つの音を順番に演奏してみたら、それだけで日本らしい雰囲気になった。日本の音楽の秘密は、この五音音階にありそうだな。	◇エ(1) 〈観察・発言・ワークシート〉
追求する	3	○前時までに学習した民謡の特徴を基に試して探る活動を通して、表現したい思いや意図をもち、つなげることができるようにする。 五つの音を使っておはやしの旋律をつくろう。	☆こきりこ節のはやし言葉「デデレコデン」の細かいリズムが印象に残ったので、このリズムを使ってにぎやかな感じを出したい。逆に、長く伸ばすリズムを使うと、ゆったりとした感じが出そうだな。	◇イ(1) 〈観察・発言・ワークシート〉
	4	○旋律をつなげて演奏し、「おはやしの旋律」をグループごとにまとめる活動を通して、まとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、つなげることができるようにする。 グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。	☆グループでお互いの旋律を聴き合ったら、私の旋律は、友達とリズムも同じでも使っている音が高かった。低い音でつくった旋律の後につなげてみたら、呼びかけとこたえみたいで楽しくつながった。 ☆うまくつながらないところは、「続く感じ」「終わる感じ」を意識して、順番を入れ替えてつなげてみたらうまくいった。	◇イ(1) 〈観察・発言・ワークシート〉
	5	○つくった旋律に合うリズム伴奏を考えることを通して、旋律とリズム伴奏を合わせて演奏できるようにする。 おはやしに合うリズム伴奏を重ねて、おはやしを盛り上げよう。	☆休符のところは合いの手や掛け声を入れてみたら、調子が整ってよかったし、祭囃子の雰囲気がよく出て盛り上がった。 ☆中の部分は少し寂しいイメージにしたかったので、太鼓のリズムを弱く打って伴奏してみたら、イメージ通りになった。 ☆繰り返しの部分は、「一人→みんな」で演奏してみた。呼びかけとこたえになって楽しい。	◇イ(1)ウ(1) 〈観察・ワークシート・演奏聴取〉
まとめる	6	○グループでつくったお囃子を演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにする。 グループのおはやしを演奏し合って、そのよさやおもしろさを見付けよう。	☆友達がつくった旋律とつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができてイメージ通りのお囃子になった。合いの手の部分は、掛け声の代わりにかねを鳴らしたら面白そう。 ☆自分たちのお囃子を音楽集会で演奏して、学校全体をお祭りみたいに盛り上げたいな。	◇ウ(1) 〈演奏聴取〉